

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)相模原市緑区橋本2丁目計画 I | 階数 | 地上8F |
| 建設地 | 相模原市緑区橋本2丁目353番2, 14 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 第二種住居地域、準防火地域 | 平均居住人員 | 162 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2023年12月 予定 | 評価の実施日 | 2022年7月7日 |
| 敷地面積 | 1,764 m ² | 作成者 | 株式会社 現代総合設計 |
| 建築面積 | 874 m ² | 確認日 | 2022年7月7日 |
| 延床面積 | 4,181 m ² | 確認者 | 株式会社 現代総合設計 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.6

| | |
|-------|-----|
| 音環境 | 3.4 |
| 温熱環境 | 3.7 |
| 光・視環境 | 3.4 |
| 空気質環境 | 3.8 |

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

| | |
|-----|-----|
| 機能性 | 3.9 |
| 耐用性 | 3.1 |
| 対応性 | 2.8 |

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

| | |
|------|-----|
| 生物環境 | 3.0 |
| まちなみ | 3.0 |
| 地域性・ | 3.0 |

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

| | |
|-------|-----|
| 建物外皮の | 4.0 |
| 自然エネ | 3.0 |
| 設備システ | 3.6 |
| 効率的 | 3.0 |

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

| | |
|--------|-----|
| 水資源 | 3.0 |
| 非再生材料の | 3.7 |
| 汚染物質 | 3.3 |

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

| | |
|-------|-----|
| 地球温暖化 | 3.6 |
| 地域環境 | 3.0 |
| 周辺環境 | 3.2 |

| 3 設計上の配慮事項 | | その他 |
|--|---|---|
| 総合 住宅内では、設備機器に関して省エネ性の高いものを採用し、環境への配慮を行う。 断熱等性能等級4を取得し、断熱性能を確保している。 | | |
| Q1 室内環境 住戸の昼光率を高めに設定し、また、カーテンや庇(バルコニー)を採用するなど光・視環境に配慮している。 F☆☆☆☆建材を全面的に採用するなど空気質環境にも十分配慮している。 | Q2 サービス性能 品化法の劣化対策等級3、設備は耐用年数の長い配管材を採用し建物の長寿命化に配慮している。 | Q3 室外環境(敷地内) 緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。 |
| LR1 エネルギー 断熱性能を省エネルギー対策等級4相当、潜熱回収型給湯器、LED照明設備を採用することで省エネルギーに配慮している。 | LR2 資源・マテリアル 非構造部材にリサイクル材を使用することにより、非再生性資源の使用量削減を行っている。 | LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される